

平和人権宣言

長崎に原子爆弾が襲いかかったあの日から、76年。4分の3世紀がたった今も、私たちは「核兵器のある世界」に暮らしています。

どうして私たち人間は、核兵器を未だになくすことができないのでしょうか。人の命を無残に奪い、人間らしく死ぬことも許さず、放射能による苦しみを一生涯背負わせ続ける、このおごい兵器を捨て去ることができないのでしょうか。

本日、私たちに講演をしてくださる予定であった清野定廣さんは、8歳の時に被爆なさいました。爆心地を通り、道ノ尾駅まで歩いたときに見た残虐さわまりない光景と、多くの死傷者たちの痛恨の叫び、爆心地近くにいたが奇跡的に無傷だったお姉さんが、一週間後に放射線傷害を発症し、わずか一ヶ月後にこの世を去った無念を後世に伝えるべく、活動を続けられています。

このように、被爆者は、この地獄のような体験を、二度とほかの誰にもさせてはならないと、必死で原子雲の下で何があったのかを伝えてきました。しかし、核兵器の本当の恐ろしさはまだ十分に世界に伝わってはいません。新型コロナウイルス感染症が自分の周囲で広がり始めるまで、私たちがその怖さに気づけなかったように、もし核兵器が使われてしまうまで、人類がその脅威に気づけなかったとしたら、取り返しのつかないことになってしまいます。

ここ数年、中距離核戦力全廃条約を破棄してしまうなど、核保有国の間に核軍縮のための約束を反故にする動きが強まっています。それだけでなく、新しい高性能の核兵器や、使いやすい小型核兵器の開発と配備も進められています。その結果、核兵器が使用される脅威が現実のものとなっているのです。

“残り100秒”。地球滅亡までの時間を示す「終末時計」が今年、これまでで最短の時間を指していることが、こうした危機を象徴しています。

今なお猛威を振るう新型コロナウイルス感染症、地球温暖化、核兵器の問題に共通するのは、地球に住む私たちみんなが“当事者”だということです。未来の地球に核兵器は必要ですか？核兵器のない世界へと続く道を共に切り開き、そして一緒に歩んでいきましょう。

私たち大村高校定時制の生徒は、平和を希求する長崎県民として、核や戦争、命の尊さについて学び、絶えず核廃絶の声をあげることを誓い、これを平和人権宣言とします。

令和3年8月9日

長崎県立大村高等学校定時制 生徒会